

特集

二つの古典にまなぶ

♣	扉 FARM RAISER	小畑美史	1
♥	まなぶということ	鈴井孝雄	2
♠	今月の統計資料		4
◆	詩 冬の空	べにはこべ	8



賃上げ闘争を否定した、ウェストンの批判	川村訓史	10
職場のタイプ意識 ウェストン君ならなにを言う？	青木恵子	15
希望ある将来を勝ち取るために学習を	水村和敏	17
私たちの責務は、この社会の矛盾を訴えること	小松俊亮	19
100年後の世界で読む『帝国主義』	大久保徹	21
呼び覚まされる今日の日本の資本主義	持田明彦	26
資本家はなんのために争つか	杉山隆次	28
いまもつづく寄生と腐朽	嶋志田俊明	30

職場の法律相談 会社側の不当労働行為や残業代不払い	只野 靖	32
---------------------------	------	----

第2特集 求められるジェンダー平等とは	山口かおる	35
---------------------	-------	----

国家と教育 10 戦後の道德教育の「反動化」	堀口悟郎	55
------------------------	------	----

誌上学習会『イギリスにおける労働者階級の状態』14		59
労働者運動		

◆ キャラバンサライ	42	◆ みんなで歌を	54
◆ スポーツ時評	44	◆ 情報BOX	63
◆ メルボルン便り	46	◆ 北から南から	64
◆ 経済を知ろう！	48	◆ センターと	68
◆ 中国観看	50	◆ みなさんをつなぐ	
◆ たちみ席	52		

カット＝野崎安希子

まなぶということ

『まなぶ』は、平和の礎を築く
まなび、団結し、闘う！

鈴井 孝雄

いま私たちは平和の危機に立たされている。2015年9月、内閣法制局でさえ「集団的自衛権は認められない」としてきたものを安倍は無理やり安保関連法案を強行採決し、法制化した。22年12月、岸田は敵基地攻撃能力を保有し、43兆円もの軍事支出を閣議決定した。麻生は、昨年8月「戦う覚悟が必要だ」と、あからさまに戦争を煽っている。さらに辺野古新基地建設を強引に推進し、南西諸島に自衛隊を配備している。

この危機に、良識ある労組や市民が立ちあがっている。人口約150万人の沖縄で1万人を超す人々が昨年11月「沖縄を再び戦場にさせない」と結集した。平和の砦は、どこにあるのか？ 憲法

に戦争の放棄をうたっているが、この条文があれば戦争は防げるのか？ 憲法99条は、憲法を私たち国民が守らなければならない、とは書いていない。私たちは

この憲法を権力者に守らせる責任がある。それは声を上げ、行動することだ。

一人の労働者の力は弱い。だが働く者の強みはなにか？ それは生産を担っていることだ。それぞれの持ち場を必死に支えているからこの社会は動いている。資本と対等になれるのは、労働者が団結し交渉し、いざとなれば労働することを止めることではない。働かなければ生産は止まる。ストライキはこの事実を資本につきつける。だから私たちはどんなに苦勞しても団結する。

労働組合の政治活動を否定する意見がある。だが、労働条件の向上は、平和があつてこそ可能だ。はじめは自分たちの賃上げだけをめざす労組も、次第に視野を広げ、社会的正義をめざしてたたかう。それが労組への支持をさらに広げる。

『まなぶ』は、社会の仕組みを知ることが出来る。私たちが進める「まなぶ運動」は、働く者の学びの場を広く提供する運動だ。2024年は平和の危機が迫る中で、もっとも大事な基礎を創り出す『まなぶ』を広げていこう。

(労働大学まなぶ友の会全国連絡会議
会長)